ケース４　「地域住民の生活の足・三津の渡し」の運航

キーワード：地域コミュニティの活性化　地域振興　観光客を呼び込む要素

１　学習内容

松山市の湾岸施設として機能を十分に発揮できるための維持管理の取組

２　学習目標

地域資源の維持と有効活用を目指す取組の事例を通して、その特徴や在り方を理解する。

３　学習指導要領において対応する科目、単元および学習内容

「マーケティング」

⑵　市場調査

イ　情報の収集と分析

市場調査を行う課題を設定し、情報の収集・分析、報告書の作成及びプレゼンテーションを行う実習をさせ、市場調査に関する知識と技術の定着を図る。

「広告と販売促進」

⑶　店舗の立地と設計

ア　店舗立地の重要性と立地条件

店舗立地の重要性と立地条件について、小売業における具体的な事例を取り上げて理解させるとともに、顧客を誘引する立地について、具体的な課題を設定し、立地の検討を行う実習をさせる。

「ビジネス経済応用」

⑴　サービス経済化とサービス産業

イ　サービス産業の現状

我が国におけるサービス産業の現状と課題及びサービス産業においてビジネスの機会をとらえて成長した企業の具体的な事例について理解させる。

⑸　ビジネスの創造と地域産業の振興

イ　新たなビジネスの展開

我が国における新たなビジネスの展開の現状について、具体的な事例の調査や研究を通して理解させる。

ウ　地域ビジネス事情

身近な地域のビジネスの動向やビジネスに役立つ資源についての調査や研究を行わせる。また、その結果を基に、地域産業の振興のための具体的なビジネスアイディアの考案、その実現方法の立案及び地域や産業界への提案をする実習をさせるとともに、地域産業の振興への寄与の在り方について考察させる。

４　評価の観点

・地域文化と資源の維持活用にどう取り組んでいるか理解している。　【知識・理解】
・施設跡地の再開発の課題と集客の要素について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。　【思考・判断・表現】
・地域コミュニティの活性化について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。　【思考・判断・表現】
・将来の町のために地域振興について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。　【思考・判断・表現】

事例　ケース４　「地域住民の生活の足・三津の渡し」の運航

500 年の歴史を誇る渡船である。松山市道高浜２号線の一部として、松山港内港地区の三津浜と港山の間約 80m（陸路約２ｋｍ）を結ぶ市営渡船（小型動力船・定員 13 名）で、年中無休・無料で年間約５万人が利用している。松山市の運営で船長は委託の市職員が勤めている。生活に欠かせない存在として今でも地元の人に親しまれている。

松山を舞台とした映画「がんばっていきまっしょい」においては主人公が通学に利用する場面が登場する。最近はＴＶや雑誌等で紹介されるようになり、観光スポットとして松山を訪れた人々にも親しまれている。

簡単な造りの船で後方に運転席があり、客席は屋根がなく両弦に備えられた腰掛けに座れるようになっている。三津浜港内は波が少なく、往来する船が立てる波以外はほとんど揺れないためのんびりとした航行を楽しめる。船縁から手を伸ばせば水面に触れるほど船は浅い構造となっている。

１　古き歴史

その起源は室町時代にまでさかのぼり、港山側にあった港山城への物資輸送や三津浜側にあった須崎の浜に毎朝食料を調達するため利用したのが始まりであり、江戸時代の俳人小林一茶も句会に参加するため乗船したと言われている。

豊臣秀吉の四国征伐により港山城が廃城になった後も三津浜には松山藩の水軍が置かれ須崎の魚市場の賑わいと共に渡しも「須崎の渡し」「三津の渡し」「古深里（こぶかり）の渡し」「港山の渡し」などと呼ばれ、行商人や地元民の足として利用され続けることになる。15 世紀半ばから、渡船の利用目的が変遷しながらも今の世まで続いており、地域住民の足として古くから親しまれている。

手漕ぎ時代の三津の渡し

２　渡し船とは

港湾、河川、湖沼などの両岸を往復して客や荷物を運ぶ船および航路のことである。渡船（とせん）ともいう。また、渡し船に乗り降りするところを渡し場（わたしば）、渡船場（とせんじょう）などという。広義に「渡し船」には離島との航路や釣り客と沖の独立した防波堤や岩礁へ運ぶ渡船業、リゾート企業などが顧客専用として運用するものも含まれる。比較的狭い距離の対岸同士を渡し、庶民の日常の交通や観光に利用され、公共性が高いとされる。

渡船「こぶかり丸」の写真

３　三津の渡し

三津の渡しは、船がこちら側にいるときはそのまま乗れば出航し、反対側にいる場合でも船長さんが気が付けば直ぐ折り返してもらえ、そうでない場合にも岸壁にあるボタンを押すと迎えに来るという至極便利な仕組みで、しかも「道路」だからであろうか、無料で対岸へ渡してもらえる。周辺住民の生活の足というだけでなく観光ポイントにもなっており、メディアに取りあげられることも少なくない。岸壁の両脇をアルミ合金製のフェンスで囲っており、そのフェンスには鯛や鮃などの絵を看板にして取りつけ船の乗場を演出している。船は舳先を階段状になった桟橋の先に乗り上げるように接岸する。操舵席が船の後方にあり、客席にあたる部分には屋根がなく、舷側に腰掛けるための台がある。運行時間帯は７時から 19 時である。

4　関連情報

⑴　「港山城跡」

道後温泉近くの湯築城にあった河野宗家と対抗して、港山に河野通春が 1460 年に築いた。豊臣秀吉の四国征伐で滅び、廃墟となった。生い茂る樹木の間から「三津の渡し」が見え、港を出入りする船を監視していたとも言われている。

⑵　「三津浜界隈」（石崎汽船（株）本社ビル）

愛媛県庁などと同じ木子七郎氏の設計になるもので、文化庁の登録有形文化財となっている。

⑶　「三津浜焼き」

三津夢港実行委員会が食べ歩きマップを作成するなどソウルフードとしての知名度も高まっている。

ア　利用客の減少傾向　―地域近隣施設の閉鎖　梅津寺パーク―

前身は、伊予鉄道が 1935 年に開園した遊園地で、当初は「梅津寺遊園地」と言う名称であった。1963 年に「梅津寺パーク」と言う名称でリニューアルオープンした。

梅や桜のある庭園と海水浴場、野外ステージ、各種アトラクションがある遊園地となっていた。かつては観覧車もあったが、閉園となる以前に撤去された。また、坊っちゃん列車（伊予鉄道 1 号機関車。鉄道記念物）が展示されている。花見シーズンはナイター営業も行っていた。

海岸にあるので異常気象時（強風、高波）には閉園することがあった。遊具が普段は動いていないことがあり、スタッフに声を掛けると動かしてくれていた。1935 年から 73 年間、リニューアルオープンから 46 年間営業され、本格的な遊園地として松山市並びに近隣の子供たちに「遊び」と「憩い」を提供してきたが、近年の少子化・レジャーの多様化による入園人員の減少等により、年間 30 万人以上の来園者があったものの年々減少。2007 年の来園者は 6 万人弱にまで落ち込み、毎年 5,000 万円以上の赤字経営となり、2009 年３月 15 日をもって閉園した。跡地については、梅園部分をそのまま残し、遊具を撤去した部分を多目的広場として残している。翌３月 16 日以降は、名称が「梅津寺公園」と変更された。

2010 年５月、愛媛ＦＣのクラブハウスと練習場がサンパークから本園の跡地に移転し、「愛フィールド梅津寺」と命名された。入園料は、遊園地部分が無くなったので、200 円から 50 円に値下げされている。また、海水浴場や「梅津寺別荘健康ランド」（温浴施設）、「梅津荘」（料亭）も閉鎖している。

2015 年、跡地の再開発に、道後地区で旅館業などを手掛ける「エイトワン」（松山市）が乗り出すことが分かった。2017 年夏の開業を目指して温泉を備えた宿泊・飲食施設などを整備する方針で、新たな愛媛観光の拠点にしたい考えだ。伊予鉄道（松山市）やエイトワンによると、開発予定地は伊予鉄高浜線梅津寺駅の東側区域約１万８千㎡。伊予鉄の所有地で、エイトワン側の再開発の前提となる温泉掘削が成功すれば、30 年間の賃貸借契約を結ぶ。エイトワンは 20 億円程度をかけ新施設「伊織スパ＆リゾート（仮称）」２棟を建設する予定。１棟は 100～200 人が宿泊できる温泉施設にし、もう１棟は砥部焼の絵付けなどの体験コーナーや農水産物の直売所、飲食店を設けるという。

イ　利用客の声　―観光客集客への取り組み―

①　松山港まつり（三津浜花火大会）

愛媛県松山市の三津浜港を中心に毎年８月第１日曜日に開催されている、夏祭りの

花火大会である。中四国最大の花火大会。海面いっぱいに広がる８号玉、台船を使った海上からの打ち上げ花火、新作スターマイン、水中花火など多数の花火が彩る。目玉は日本煙火芸術協会員による 10 号玉作品や、超特大 15 号球(45cm)のダイナミックな花火が三津中の夜空を彩る。当日は、会場周辺に大規模な交通規制が敷かれ、公園等に臨時駐車場が設置される。また、会場周辺の道路が歩行者天国になるため、路線バスも時刻が変更になったり会場手前で打ちきりになったりする。伊予鉄道高浜線は、増結や増便される。海上からの観覧のために、遊覧船やクルーズ船が運行される。また、三津の渡船から観覧する人も少なくはない。

② 松山観光港

高浜港がカーフェリーをはじめとした船舶の大型化に伴って手狭になったため、高浜港の北に新たに設けられたもので、当初は高浜新港と呼ばれた。現在の旅客ターミナルの建物は 2000 年 10 月７日にオープンした２代目である。現在のターミナル建て替えにあたっては松山市の地元交通企業および建て替え時点の就航会社（伊予鉄道・石崎汽船・瀬戸内海汽船・関西汽船・ダイヤモンドフェリー）および金融機関（伊予銀行・愛媛銀行・愛媛県信用農業協同組合連合会）が出資した第３セクターの松山観光港ターミナル株式会社が 1998 年に設立され、建て替え工事完成後は同ターミナルの管理・運営を行っている。

伊予鉄高浜線高浜駅より連絡バス約２分または徒歩約 10 分。高浜トンネル開通に伴い、トンネル経由の松山市内からの直行バス、「松山観光港リムジンバス」もある。なお、高浜駅からの鉄道の延伸構想も以前からあるものの、多額の事業費を要することから具体的な計画に至っていない。

③ 愛フィールド梅津寺（愛媛ＦＣ）

2010 年５月より利用開始となったサッカー専用の施設。　人工芝グラウンド１面が設置されている。また、愛フィールド梅津寺と同所に愛媛ＦＣのクラブハウスも設置されている。伊予鉄道高浜線梅津寺駅から徒歩。梅園などへの来園者のために、梅津寺パーク閉園後も駐車場が存置されている。南海放送サンパークから拠点地を移し、Ｊ２リーグで奮闘中。また、ジュニア・ジュニアユース選手が伊予鉄道を利用し、練習に通う様子も伺える。

ホームゲームをニンジニアスタジアム（砥部町）で開催しているが、愛フィールドを開拓し、県外からのアクセスを合理化する声もある。

（参考Web）　松山市ＨＰ
〈https://www.city.matsuyama.ehime.jp/index.html〉

2016/2/1 資料作成

ワークシート

ケース４　「地域住民の生活の足・三津の渡し」の運航

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　三津の渡船の歴史について述べなさい。【知識・理解】

2　利用者の減少傾向について、その理由を述べなさい。【知識・理解】

3　梅津寺跡地を再開発するうえで、集客に必要な要素を述べなさい。【知識・理解】

4　今後、三津の渡船の運航を維持管理していくためには何が必要か考えてみよう。

【思考・判断・表現】

5　あなたの身近な地域でどのような地域開発ができるか考えてみよう。【思考・判断・表現】

ワークシート　解答例

ケース４　「地域住民の生活の足・三津の渡し」の運航

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　三津の渡船の歴史について述べなさい。　【知識・理解】

室町時代、港山と三津浜の海間を物資輸送するために利用したのが始まりである。
須崎の渡し、三津の渡しなどと呼ばれ、行商人や地元民の足として利用され続ける。
渡船の利用目的が変遷しながらも現在まで運航、地域住民の足となっている。など

2　利用者の減少傾向について、その理由を述べなさい。　【知識・理解】

地域の過疎化傾向と少子化傾向
道路整備完了、モータリゼーションによる利用者の減少

近隣娯楽施設の閉園、閉鎖

3　梅津寺跡地を再開発するうえで、集客に必要な要素を述べなさい。　【知識・理解】

温泉の掘削の成功、温泉施設、宿泊施設、緑地環境
伊予鉄道とのアクセス、周辺湾岸港へのアクセス
海水浴場の環境改善整備、など

4　今後、三津の渡船の運航を維持管理していくためには何が必要か考えてみよう。
【思考・判断・表現】

松山市の協力継続、現地観光としての宣伝
後継者探し、諸費用問題の解消、地域文化としての継承
船のリサイクル、など

5　あなたの身近な地域でどのような地域開発ができるか考えてみよう。【思考・判断・表現】

生活地域に生徒自身が出店してほしい店舗等の意見を出し、必要な土地や地域施設との競合、大規模小売店舗立地法などあらゆる角度から考える。
地域コミュニティとしての役割も果たすことも条件とする。